

教化センターだより

No. 410

発行日 2021年8月1日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



〈発行〉香雪美術館

『聖徳太子 時空をつなぐものがたり』

〔編 集〕中之島香雪美術館

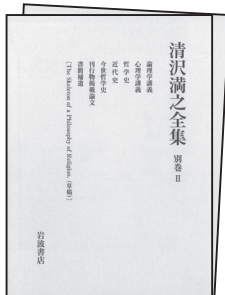
聖徳太子は、日本という国の礎を築いた優れた政治家として、また日本への仏教の導入を牽引した人物として、いつの時代も幅広い人々から敬愛されてきました。最も有名な日本人と言っても過言ではありません。ただ、その人間像については現在も多くの議論があり、その謎がなおさら人々を惹きつけています。
(ごあいさつより引用)

『清沢満之全集』(別巻Ⅰ・Ⅱ)

〔編 集〕大谷大学

本書(『清沢満之全集』別巻Ⅰ・Ⅱ)は、大谷大学編『清沢満之全集』(全九巻、岩波書店、二〇〇二-三年、以下『全集』と略)に収録されていない清沢満之の著述を『全集』別巻として刊行するものです。

『全集』には九〇篇余りの新出文献を収録しましたが、刊行後、清沢満之の著述と認めることができる『全集』未収録文献の新たな情報が寄せられました。別巻刊行は、『全集』に収録されていないこれらの文献群を公開し、清沢満之の研究のみならず、関係する諸分野のさらなる進展に寄与する事を目的として企画されたものです。
(別巻Ⅱ 編集後記より引用)



〈発行〉岩波書店

『歎異抄の近代』

〔著 者〕子安宣邦こやすのぶくに

「私が引き受けようとしたのは、近代の知識人における『歎異抄』による「信」の思想体験を読み直し、辿り直す事であった」(本書「あとがきに代えて」より)

清沢満之から、暁烏敏、倉田百三、三木清などを経て、戦後の野間宏、吉本隆明らにおける『歎異抄』の思想体験がいま読み直される。
(そで解説より引用)



〈発行〉白澤社

— 教化リーフレットの
活用について —
4枚の「教化リーフレット」
は、各寺院・教会において「寺報」
や個別に複写しての配布、同朋
会や聞法会での教材としての活
用いただければ幸いです。

— 10月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」……建部智宏
「往生はいよいよ一定と
おもいたまうべきなり」

リーフレット②

「今月のよび」……高間重光
「慶喜一念相應後
与尊提等獲三忍
即証法性之常樂」

リーフレット③

「もつち相談」……松山正澄
「仏法を聞いても
空しくなつて…」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」
「火の中のハス」

(敬称略)

往生は

いよいよ一定と

おもいたまう

ぶきなり

『歎異抄』
たんにしょう

故聖人のおおせとして
第十二章にあるお言葉で
す。

毎月行かせていただく
お家。七十代のご夫婦が
おられます。きれいにお
荘厳しんげんされたお内仏ないぶつ、毎
回奥さんと私、二人で正
信偈をお勤めします。ご
主人はというと、ちょう
どお勤めが終わる絶妙の
タイミングで後ろに座ら
れます。

私が「ご主人も一緒に
お勤めしましょうよ。」
と、言うと、「悪いけど、
ワシは神さんとか仏さん
とかって信じてないね
ん。ごめんな。」「もう！
ちよつとあんた、何ちゆ
うこと言うの。おじゅっ
さんすんません。私が動
けたら叩いたるのに。」
車いすに座る奥さんが笑
いながら悪がられます。

「この人こんな事言う
てますけど、お仏壇ぶつだんのお
掃除、お花やお供え物も
買いに行くところから全
部しますねん。私動かれ
へんからね。」「まあ、こ
れくらいはな。それにし
てもあんたらは仏さんが
大事なんやね。ワシは生
きてる人間の方が大事や
けどね。」

ドキッとしました。信
じてないと聞いて、何と
かこつちを向いてほしい
と考えた自分が恥ずかし
く思いました。

外見と口先で取り繕っ
て内心をごまかす私。信
じてないと言いながら御
給仕きゅうしを欠かさないご主
人。ほほえむ奥さん。三
人をご覧になっている阿
弥陀さまは、すべてお見
通しなのでしよう。

(建部 智宏)

今月のことば

慶喜一念相應後
与韋提等獲三忍
即証法性之常樂

慶喜の一念相應して後、韋提と等しく三忍を獲す。なわち法性の常樂を証せしむ、といえり。

大阪教区の教化点検班の取り組みの中で、推進員養成講座を受けその後も推進員としての活動を続けておられる方がたの声を聞かせて頂く機会がありました。興味深かったのは、「講座の初めの頃は、「仏教とはそんなものか」というぐらいで聞いていましたが、いつのまにか少しずつのめり込んで聞くようになりました。」という発言でした。

それは今までの自分の物指しとは全く違っていたという意外性と、単なる知識として他人事のように聞いていたことが自分を言いつたことではなかったであろうか。仏さまの智慧の物指しと自分の本当の姿という出あいは、驚きであり感動であったに違いありません。「慶喜一念相應」とは、そのような転機と喜びを表現したことはないのでしよう。『観経』には韋提希の得たさとりは「無生法忍」とありますが、善導大師は具体的にそれを「喜忍・悟忍・信忍」の三忍と言ひ表わしてくださいました。親鸞聖人は

『文類正信偈』で善導大師の教えを、「涅槃の門に入るは、真心に値うなり、必ず信・喜・悟の忍を獲れば、難思議往生を得る人なり」と詠っておられます。善導大師の教示によって、無生法忍を獲るとは眞実信心(真心)をおられるのです。そして「聞其名号信心歡喜乃至一念至心回向」という本願成就の世界は、「韋提と等しく」とあるように、釈尊在世の韋提希も仏滅後の無数の人びとも共に等しく生まれることのできる世界なのです。

姿が照らし出され「煩惱具足と信知」せしめられる時、おのづと煩惱の繫縛から解放されるといふ仏道なのです。外なる状況と自分にとつての都合の善し悪しに振り回され一喜一憂している私たちが「常樂」といふ世界に出あう道は、本願念仏の仏道しかないのではないのでしょうか。「善導独明仏正意」といふお言葉に親鸞聖人の、『大経』の本願のおこころによって明らかになつてくださった善導大師への深い謝念がしのばれます。(高間 重光)

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

207頁

『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

27頁

もしもし相談



仏法を聞いても
空しくなって…

問

長い間お内仏の
お給仕と法話の聴
聞をさせていただきま
したが、「自分が大事、自
分が一番」という心が
抜けません。

そんな自分が悲しく
なり、今まで何を聞い
てきたのかと空しくな
ります。残された人生
、喜んで過ごすため
には、どのように歩ん
でいけばいいでしょうか。
(70歳・女性)

答

私たちが聴聞して
いく中で、「お念仏の
教えは、自分が生き
ることに関係があ
ったのだ」と気づか
され、亡き人のため
と想っていた仏事
から、私のための

仏事であったと気づか
されていきます。

そして新しくお念仏の
いわれを喜んで聴聞す
るようになります。そこ
で仏の願いやお浄土に
ついて話されます。人と
人が響きあい、認め合
う世界であることなど
です。それは素晴らしい
と思えるのですが、同
時に自分がかいかに
自己中心のか、自分の
都合・よしあしで人
を切り続ける、「私は
どうもハサミのよう
だ」とおっしゃった
先生もおられます
が、そんな傲慢な
あり様も知らされて
きます。私の本当の
すがた、心底までも
が映し出されます。

私たちが長い間、
世間とか娑婆とい
われる場で

生きてきております。
ここでは、私に問題
があったら頭を下
げることは恥ずか
しいことであり、
負けを表します。
問題ないよ
うな顔をしなければ
ならないのです。
そんな習性が身
についています。
ですから自分中心
・自分が一番とい
う身についた性質
や根性が見えれば
何とか変えようと
しますが、縁さえ
あればまた出て
きます。

そもそも、阿彌陀
仏は私たちの身に
染みついたものに
惑わされること
をご承知の上で、
本願を起こされて
います。そして、
果たし遂げなかつ
たら仏になつた
とは言いません
と誓ってください
ます。

視点を
変えて自身を
振り返って
みますと、
自分中心
というこ
とは周りの
人は、さ
しずめ飾
り物とい
うこと
でしょうか。
また自分
が一番
ということ
は周りの
人は二の
次という
ことにな
ってしま
います。
でも現実
は、その
周りの人
たちに支
えられて
いる私
なのでは
ないでし
ょうか。

「これが私
です、長い
お育てあ
りがとう
ございま
す」。これ
が南無阿
彌陀仏の
成就した
姿なので
しょう。
その私を
既にいて
くださる
深いつな
がりをも
つ人たち
といろ
んな出来
事の中で
、新しく
歩いて
くださる
ことを
念じて
います。

(松山 正澄)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (194)



参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの経典の中に引用されて、経典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ 40)